



けんせつ

じょうしょう

上小

2020

第30号

CONSTRUCTION JOSHO

長野県建設業協会上小支部広報誌  
2021年(令和3年)3月1日発行

創造・喜び・実感産業

# 目指そう、災害に強い地域づくり



## 目次

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■東日本台風災害特集…………… 2～9<br/>「日常取り戻す 地域建設業の力」</li> <li>■千桜会(女性部会)…………… 10～11<br/>「ワーク&amp;ライフも充実した日常に！」</li> <li>■支部活動報告Ⅰ…………… 12～13<br/>上田千曲高校／1年生が地元新庁舎など見学<br/>上田千曲高校／2年生が信濃美術館を再訪<br/>上田丸子修学館高校／2年生が上田市内で現場見学</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■上小支部の仲間たち…………… 14～15</li> <li>■支部活動報告Ⅱ…………… 16<br/>年末工事現場安全パトロールを開催<br/>編集後記</li> </ul> |
|--|---|

# 日常取り戻す 地域建設業の力

## 東日本台風災害特集



2019年の10月12日に日本列島に上陸した東日本台風。ここ上小地域でも各地で甚大な被害を受け、被災から1年半近くとなる2021年3月現在も、各地で復旧作業が続けられています。

今号では、私たち地域の人々の暮らしを守るため、危険を伴う災害現場の最前線に駆け付け日々対応にあたっている技術者のみなさんに、災害当時の様子や思いを伺いました。前半は、前号でも取り上げた6つの現場を追跡し、ご紹介します。

## 別所線鉄橋・護岸崩落現場(上田市)



北沢智明さん(右)  
高田潤一さん(左)  
/株宮下組

—Qどのような現場でしたか— 護岸が崩れ鉄橋が崩落した直後から対応にあたり、概ね3週間ほど、24時間体制で緊急復旧を行いました。現在は橋の下流側で護岸の本復旧工事をしています。

—Q苦労されたところは— 緊急復旧では、当初

24時間体制を3交代でと考えていましたが、当時あちこちで災害が発生していたため人員が揃わず、結局12時間ずつの2交代制で作業員さんをお願いしました。休憩も十分にとれず体力的にも大変厳しい作業となりましたので、ひとりひとりの健康管理と二次災害には一番気を使いました。当時供給が追いつかずパンク寸前だったコンクリートなど、資材に関する調整も苦労したところです。その後の本復旧でも、限られた人員で6月の梅雨時前に作業を終わらせるという目標のもと、休みなしで復旧にあたりました。

—Q災害復旧にあたられて— 今回は地元の方による差し入れや、現場入口に設けた投書箱に励ましの言葉をたくさんいただくなど、応援の声がとても励みになりました。被災直後から一緒に復旧にあたった栗木組さんをはじめ、協力業者のみなさんも「自分たちがなんとかしなくては」という強い意識と使命感を持ち、同じ方向を向いていたことで、本復旧完了まで来られたと思っています。



竹内信介さん  
/株栗木組

—Q現場を見て— たぶん皆さんも同じだったと思うんですが、橋も落ちてしまっただけという状況で、堤防だけは決壊させちゃいけないと。協力業者のみなさんに協力いただいて、少しでも早くという気持ちで復旧にあたりました。その後

の本復旧では、橋から上流側の護岸を担当しました。

—Q苦労されたことは— 被災当初、作業を進めるために川の流れる方向を変える「瀬替え」という作業が必要だったのですが、10月でまだ出水期(降雨量の多い時期)だったため、途中で何回も流されてしまいました。そこで無理をすると二次災害に繋がりがねないので、安全を考えながらの判断が難しいところでした。本復旧では梅雨時前に工事を完了させるという期限がありましたが、上田電鉄さんと同じ箇所で作業していた兼ね合いで、工程等の調整も苦労した部分です。

—Q災害復旧にあたられて— 私自身、生まれ育った地区だったこともあり、別所線や堤防道路をよく利用していた一人です。「生まれ育った地元の生活を支えたい」という思いで建設業に入りましたが、今回は同じ地元企業の宮下組さんとも協力し合い、地域の方からの励ましや気遣いのおかげもあって、皆さんの生活を守ることができたのかな、という思いでいます。



## 海野宿橋崩落現場(東御市)

### —Qどのような現場でしたか—

護岸とともに海野宿橋の橋台や道路が崩落。橋のすぐ下を走るしなの鉄道の運行再開が最終目標でした。被災箇所への道も断たれていたため、河川のなかに1300m余りの仮設道路を作りながら現場へ向かい、24時間体制で応急対策工事にあたりました。同時に、再び同じ箇所が被災しないよう河道掘削も行いました。

### —Q苦勞されたところは—

設計書がないため毎日作業しながら計画を立て、機械や人員配置等をしていましたが、こういった緊急性を求められる状況で安全や施工、工程を管理するのは大変難しかったです。しなの鉄道さんからは1カ月で再開したいというお願いでしたので、県の担当者の方も含めて毎週会議を開き、進捗状況の報告や打ち合わせをしながら進めました。

### —Q災害復旧にあたられて—

1カ月間休みもとれず、一日12時間以上対応にあたるなど非常に大変な現場でしたが、1カ月後、無事しなの鉄道の運行が再開された時はほっとして、ゆっくりと休みました。今回は図面がないなか、協力会社のみなさんも含め皆で案を出し合い、日々検討を重ね、一番効率のいいやり方を探しながら進めていったという点で、自分たちの経験が生かされた現場だったのでは、と思います。



中島哲雄さん／東部開発(株)



## 田中橋道路崩落現場(東御市)

### —Qどのような現場でしたか—

田中橋の橋台背面が流出し、道路が崩落。東御インターへ続く主要幹線道路だったため、早期開通が求められる現場でした。大きな障害として既設の都市ガス管が崩落せずに残り、破損しないよう防護した状況下での気の抜けない作業となりました。道路開通後の現在も、川底や橋台の補強工事を続けています。

### —Q苦勞されたところは—

各地で災害が発生していたため、重機や車両・資材等の手配には苦勞しました。護岸が出来てこなければ道路の工事にかかれなため、いかに早く護岸を仕上げていくかの段取りも大変だったところです。屈曲した護岸の形状上、作業が思うように進まない日が続き、少しでも早く進めるために夜10時頃まで照明をつけ、作業を行いました。

### —Q災害復旧にあたられて—

本当に間に合うのだろうかという不安はありましたが、何とかするしかない、という気持ちで取り組みました。直接作業を行ってくれる関係者も同じ気持ちで早期開通を目指してくれたことに、大変感謝しています。近隣の方々に「夜遅くまでご苦勞様です」と励みになる言葉をかけていただき、開通した際は思いもしないほどたくさんの方が集まり「本当に嬉しい、涙が出ます」と喜んでくれました。嬉しく思うと同時に、開通できてほっとしました。



峰村修さん／竹花工業(株)田中支店



## 神川の護岸崩落現場(上田市)

### —Qどのような現場でしたか—

県からの要請で現場確認に向かうと、法面が大きく崩れ今にも家が落ちそうな状態。市街地へ水を送る水路も崩壊していたため、合わせて復旧の依頼を受けました。仮復旧では、絶対にこれ以上崩さないこと、年内に法面を安定させることを目標に復旧にあたりました。

### —Q苦勞されたことは—

一日も早く、というなかで、まず現場の状況を把握し、どうすれば安全かつ迅速で強固な仮復

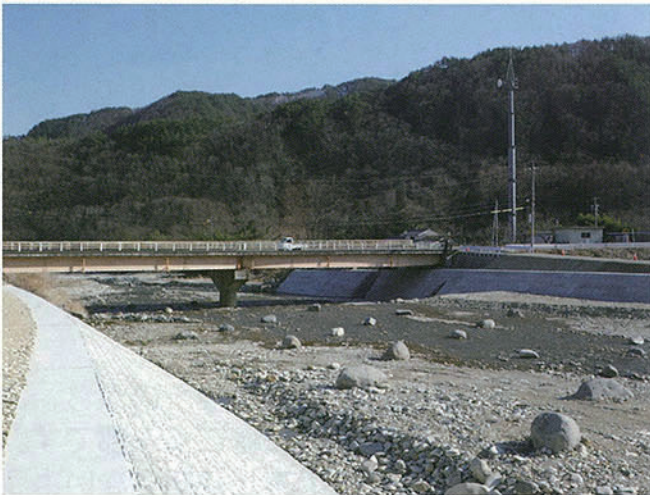
旧ができるか—という工法の検討作業は大変でした。急なことだったので作業に必要となる専門業者の手配にも苦戦しましたが、今までの人脈を生かして交渉し、連れてくることができました。またいつ崩れてもおかしくない危険な現場でしたので、日々のミーティングや点検は力を入れたところでした。

### —Q災害復旧にあたられて—

こういった大災害の時にたまたま地元の建設会社で部長をしていたという縁でしたが、目標通り年内に仮復旧が終えられた際は、地域の方や関係者のほか、先代の諸先輩方にも「ご苦勞だったね」なんてねぎらってもらい、非常に良かったなと思いました。今後も、次の出水期までに現在行っている本復旧工事を完了させるという目標がありますので、引き続き安全第一で頑張ります。



岩下大輔さん(左)と關三喜男さん  
/榊宮下組



## 武石新橋崩落現場(上田市)

### —Qどのような現場でしたか—

橋の取付部分が崩落し、当時一週間余り全面通行止めになりました。私たちは応急復旧後の現場に入り、橋梁部分と護岸の本復旧工事を行っています。

### —Q苦勞されたところは—

河川の工事なので梅雨に入るまでは大変忙しかったです。昭和の56災害など、過去にも何度か水害の復旧に携わった経験があったので、川の工事の怖さは重々わかっていました。特に最

近の災害は経験以上のものがありますから、工事を早く進めたい部分と安全確保の擦り合わせは大変でした。降雨時は上流で工事にあたっている仲間とも連絡を取り合い、注意しながら進めました。

### —Q災害復旧にあたられて—

上流地域の方々にとって、この道はただひとつのライフライン。重要な場所なので、壊れないものを作らなくちゃいかなと思います。災害に遭われた方の土地も利用させていただいたり、だいぶ地域に助けてもらったという感覚もあります。災害復旧の一環として、現場ではオペレーターさんが、魚が住みやすいように石を配置するなど、何年か先にいい釣り場になるような、親しみやすい場所になるような工夫もしてくれて。そんなふうにも総合的に考えながら仕事ができるとおもしろいですよね。



鈴木高弘さん(左)と清水忠美さん  
/北澤土建(株)



東日本台風で被害を受けた場所のうち、こちらで取り上げているのはごく一部です。このほかにも、地元の方しか知らないような場所、普段あまり人目につかないような場所、数えきれないほどの場所で被害を受け、そのひとつひとつの現場で、建設業に携わるみなさんが復旧にあたっています。後半は、たくさんある現場の中から新たに6つの現場をご紹介します。



## 内村橋崩落現場(上田市)

### —Qどのような現場ですか—

二つあった橋のうち片方が落下し、もう一方も大きなダメージを受けたため、橋の架け直しを行っている現場です。旧橋台を撤去し、現在は新たな橋台を作る工事と、護岸の復旧を行っています。兩岸の橋台工事を同時に進める計画なので、コンクリートの養生期間を考慮しながら交互に施工を進めているところです。

### —Q苦勞されていることは—

大きな構造物なので、設計の関係上、位置や高さには気を使います。川幅が狭いため作業にはいろいろな工夫も必要とされますが、地元説明会での開通目標を11月としているため、目標に間に合うよう工程の管理が一番気を使う部分です。コンクリートの確保にも苦勞しますが、それと同時に、冬期の工事なので寒さでコンクリートが凍みないように温度管理は大変重要で、徹底して行っています。

### —Q災害復旧にあたられて—

災害直後はいろいろなところから復旧工事の依頼があり、地元の会社として頼りにされていることを実感しました。主要道路だったこともあり、通行量が多く注目度も高い現場。毎日様子を見に来られる地元の方々をはじめ、すべての通行者の「一日でも早く」という期待に応えられるよう、今後も安全に配慮しながら工事を進めていきたいと思っています。



武井元博さん/株栗木組



## 美ヶ原方面道路崩落現場(上田市)

### —Qどのような現場でしたか—

台風の翌日、雨量規制で通行止めになっていた現場に到着すると、道路はガタガタに崩れ、通行不能の状態。車を降り歩いて進むと、道路が無くなっていました。幅員が狭く、一方通行での作業になるため限られた人員配置となりましたが、協力業者の皆さんにも協力いただき、休日返上で復旧にあたりました。苦勞も多かったですが、地域住民の重要な生活道路。一刻も早い通行止めの解除、全線開通を目指しました。

### —Q苦勞されたところは—

かなり危険な現場であること、各地で災害復旧工事が行われていたため、人員の確保には一番苦勞しました。資材を運ぶ車両の確保も大変でしたが、車両確保に合わせて工程を組む場合もあるので、そういった調整も苦勞したところです。

### —Q災害復旧にあたられて—

災害直後にいち早く現場に入り、凄惨な現場を目の当たりにしましたが、恐怖感はなく、一日でも早い復旧を願う気持ちの方が強かったです。地元の方々から「頑張ってください」と温かい言葉もいただき、これからも地域の安全・安心を守るため、より一層力を入れて頑張っていきたいです。



金澤郁夫さん/北澤土建(株)



## 戸沢橋下護岸崩落現場(上田市)

### —Qどのような現場ですか—

河川の増水により、護岸が崩落する被害を受けた現場でした。被災箇所は大きく、河川に面した民地では建物の際まで被害が迫っていたため、緊急性を求められると同時に、早期の復旧が最重要課題となりました。

### —Q苦勞されたところは—

下流から仮設道路を作りながら被災箇所まで到達しましたが、洗堀（河岸などの土砂が削り出される現象）の状態が酷く、仮設道路の設置に

は難航しました。早期に復旧を完了するため、作業員の安全確保や工程の調整を行いながら、現在も工事を進めています。

### —Q災害復旧にあたられて—

河川に面した地域の方は「まさかここまで水位があがり、被害が大きくなるとは思わなかった」と話していました。大量の降雨とともに護岸を飲み込み、一夜にして崩落させてしまう水の勢いには圧倒されるばかりです。被害の大きさもそうですが、被災された方々は、私たちの想像を超える不安や悲しみを抱えながら日々の生活をされています。建設業に従事している者として、一日も早い復旧のために最善を尽くし、地域の方々が安心できるような日常を、一日でも早く取り戻したいと思っています。



小林廉さん/千曲建設工業(株)



## 加沢新堰災害現場(東御市)

### —Qどのような現場ですか—

千曲川の護岸や頭首工（河川から農業用水を用水路へ取り込む施設）などが壊れる被害を受けた現場です。現在はブロックを作りながら護岸や本堤の修繕を行っているところです。現況と図面が異なっていることがあるため、市の関係者や設計者の立ち会いのもと、工事の方向性を決めながら進めています。渇水期の今、できる限り工事を進めていきたいと思っています。

### —Q苦勞されていることは—

現場は右岸の上部道路が狭く、車両の搬入には苦勞しています。川の流れを切り替えながら工事を進めています。川の中の仮設道路の造成には2カ月かかりました。いたるところで災害復旧が進められているため、人手不足と重機の調達が一番苦勞する部分。現在も人手は足りていませんが、それはどこの現場も同じです。作業の優先順位と内容を考え、工夫しながら人員配置をしています。

### —Q災害復旧にあたられて—

会社としては利益も出さなければいけませんが、危険を伴う工事でもありますので、まずは安全が最優先です。例えば鮎の放流時期も鑑みる必要があるなど河川工事は苦勞することも多いですが、引き続き使命感を持って復旧にあたっていきたいと思っています。



大江伸剛さん/竹花工業(株)田中支店





## 五十鈴川道路等崩落現場(長和町)

### —Qどのような現場ですか—

増水により護岸や橋など多くの部分が被害を受けた現場です。施工箇所が長く、4工区ほどに分かれていて、現在3カ所めの工事を行っています。周囲が田畑のため、渇水期（降雨量の少ない時期）が終わる頃から田の手入れを始めたい—という地元の方々の意向を汲みながら打ち合わせを重ね、配慮しながら工事を進めているところです。

### —Q苦労されているところは—

周辺の道が狭いため、大型車両の搬入には苦労します。資材については昨年と比べるとスムーズに確保できるようになりましたが、作業員さんの高齢化と人手不足が一番の課題です。一人や二人ではできない仕事なので、ほかの現場とも調整しながらの作業となっています。

### —Q災害復旧にあたられて—

被災した橋は、近くにお住まいの方にとっては重要な生活道路。「なんとか早急に」という声に応えられるよう、なるべく早くという思いで復旧にあたっています。地元の方が何度か現場に足を運ばれ、復旧が進む田を見て「ありがとうございます」と喜ばれていたのも励みになっています。地元の会社として、今後も町や地域の要望にしっかりと対応していきたいです。



佐藤雅史さん/榊羽田組



## 横沢角間線道路崩落現場(上田市)

### —Qどのような現場ですか—

角間川の増水により角間溪谷へ向かう道路が崩落した現場です。全長が約1.2kmと長く、そのため全12工区に分かれています。再度川が氾濫しないよう、護岸工事が中心の工事です。

### —Q苦労されているところは—

範囲が広く工区もいくつもあるため、段取り替え（工区の変更に伴う準備）が必要で、工程管理が一番苦労しました。川幅が狭く作業スペースの確保が困難な箇所があり市との調整が必要

だったほか、上流にある温泉旅館でも同時に復旧が行なわれていたため、車両の通行を妨げないよう工事を行う必要があり、何度も調整しながら進めました。

### —Q災害復旧にあたられて—

工事を進めるなかで改めて自然災害の恐ろしさを感じました。今まではどこかで「大丈夫」と思っていた部分がありましたが、想像を絶する現場を目の当たりにし、実際にこの場を経験したらどれほど恐ろしいかと考えました。それと同時に、私たちが手掛ける一つひとつの工事が自然災害の被害を未然に防ぐ役割をしていて、とても重要な仕事をしているとも感じました。災害をなくすことはできませんが、被害を最小限に抑えられるよう、今後も工事を進めていきたいと思います。



佐々木義則さん(左)と小林弘典さん  
/春原建設株

# ワーク&ライフも充実した日常に!

新型コロナウイルス感染拡大の状況下、台風19号復旧工事が  
皆様の尽力により、急ピッチで進んでいます。  
私たち千桜会は今年1年の活動をまとめ、  
地域の住民の方々の安全な暮らしを守るため活動を続けていきます。

## 年末パトロール ～小さな危険が大きな事故へとつながる～

安全管理には細心の注意を払っていますが、現場は常に危険と隣り合わせです。  
顕在化しているものだけではなく、潜在化している災害の芽を確認することがパトロールの目的です。  
女性目線ならではの危険箇所を念入りにチェックしました。



小さな不安全行動が  
重大な事故を引き起こす  
可能性を意識しながら、  
パトロールに参加しました。



## ハラスメントセミナー ～新たな時代への第一歩～

建設業での働きやすさ、職場の活性化を目指して、セミナーに参加しました。  
お互いの気持ちを理解し、尊重し合える関係を築くことはハラスメント防止につながります。  
ハラスメントの基礎知識、コミュニケーションの重要性を認識しました。



前段階でコミュニケーションを  
大切にすることが  
重要だと学びました。



## 千桜会会員募集中

女性が働きやすく、働き続けられる職場環境を整備するために  
千桜(さくら)会は活動しています。  
技術者、営業担当者、事務職の女性の皆さん、一緒に参加しませんか?  
上小地区の建設業界で働く女性を応援しています!

## 楽しく心豊かな手織り 「クラフトテープでかご作り」

「誰でも手軽に楽しんで」をモットーに自宅でできる趣味を先生が教えてくれました。エコで実用的なところも女性に大人気。色やデザイン選びから、完成後も大盛り上がりでした。現場事務所のお菓子入れに最適です。



「先生～」と呼ぶ声で先生も大忙しです

無心になって編み込む  
時間に癒されました！  
完成までわくわく！

同じかごでも個性が出て  
印象が違いました。  
家族からも大好評！



## 聖なる夜に彩を添える 「クリスマスリース作り」

「リース」は、始まりもなく終わりのない「永遠」の象徴とされ、古くから愛情を示す花飾りとして存在しています。玄関、リビング、キッチンに…クリスマスリースを飾るだけで、心温もり、明るい気分になります



明るい先生が丁寧に教えてくれました

よし私も！と  
意気込みは十分！  
パーツの配置で仕上がりが  
変わるのがおもしろい！

念願のオリジナルリース！  
思わず時間が経つのを  
忘れてしまいました。



## 女子会のお弁当日記

今回のお弁当は上田市役所前にある「トリデンテ」さん。石窯で焼き上げたピザが絶品！知る人ぞ知る穴場のお店です♡

食材が豊富で、  
見た目も楽しめるお弁当！  
ラタトゥイユやキッシュは  
本格的な味わい！



トリデンテ  
上田市大手2-4-5  
TEL0268(75)5479

## 千桜会広報委員会



Member  
会長：平野 明美 【平野建設(株)】  
会員：伊藤 由香 【東部開発(株)】 粕尾 優希 【榊春原】  
塚本 優 【榊羽田組】 石塚 夕起 【榊宮下組】

昨年度までの活動とは、様子が違ってしまったこの一年。数えるほどしか顔を合わせることができませんでしたが、こうして紙面にしてみると、案外色々な事をやってきたような気がします。まだまだ自粛という言葉が付きませんが、来年度も、より深みのある活動を続けていきたいと思ひます。  
会長 平野 明美

## 上田千曲高校 1年生が地元新庁舎など見学



見学後は様々な質問が(信濃美術館)



天井内部の説明を聞く(上田市新庁舎)

10月19日、上田建設事務所と共催で上田千曲高校建築科の1年生40人を招き、建築工事の進む信濃美術館と上田市新本庁舎の現場見学会を開きました。昨年に続き、厚労省の「つなぐ化事業」を利用して行われたものです。

信濃美術館はコンセントや空調を内部に納めることが特徴で、生徒たちは興味深そうに見入っていました。男子生徒の一人は「修繕やリフ

ォーム工事は見たことがあるけれど、新築のRC造建築物は初めて」と話していました。

地元上田市の新本庁舎では、同校OBで清水建設の今井拓己さんが工事概要を説明。タワークレーンのブーム解体作業での苦労話や、見学の見どころなどを伝えました。その後生徒たちは各階を回り、内装工事が進む現場の雰囲気の間近で感じていました。

## 上田千曲高校 2年生が信濃美術館を再訪



設計の宮崎さんからお話も(信濃美術館)



工事の進捗を確認(信濃美術館)

11月6日、県との共催で上田千曲高校建築科の2年生40人を対象にした工事現場見学会を実施。信濃美術館と丸子統合保育園の工事の様子を見学しました。

昨年10月にも訪れた信濃美術館では内装工事が進められており、清水-新津JVの杉山和弥さ

んがさまざまな建材を紹介し「建材の軽重や感触を感じながら仕事ができる楽しさがある」と現場監督の仕事の魅力をPR。設計担当の宮崎浩さんは「建築の仕事にも様々な職能がある。何がしたいか今のうちにじっくり考えて」と声を掛けていました。女子生徒の一人は「現場作



「建設業界のイメージは？」(動画見学会)

業を生で見て、これだけの機材に本当にすごいなと思った」と話していました。

丸子統合保育園の現場は、施工を担当する宮下組が自社で制作した動画を使って案内。担当者が建設中の建物の内外を巡る様子のほか、仕事内容の紹介や、同校OBの若手技術者へインタビューする様子などが流れ、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。

動画の合間にはワークショップ形式の研修も



時には笑顔的一幕も(動画見学会)

実施。進行役の石塚夕起さんから提示されるお題に対し、今の自分の思いや考えをポストイットに書いて貼っていく—というもので、「建設業界のイメージ」といったものから「将来の夢」「夢を叶えるために今できること」といったテーマが並びました。生徒たちは時折顔を見合わせたり悩んだりしながら、思い思いに言葉を書き込んでいました。

## 丸子修学館高校 2年生が上田市内で現場見学



生コン打設作業を間近で(大日向)

10月20日と21日、丸子修学館高校で工業科を選択する2年生35人を対象に現場見学会を開催しました。生徒たちは上田市内で工事が進む堰堤や地域センターの増築現場など3カ所を見学し、土木と建築の施工技術を学びました。

初日は大日向の砂防堰堤工事の現場で、クレーンで生コンを流し込み振動機で手際よく打設する作業を見学。生コン打設をしたことがあるという男子生徒は「今日見た生コンは以前と比べ固く、スランプが違う」と話し、自身の経験



現場で記念撮影(大日向)

をもとに骨材や強度などを確かめていました。このほか工期短縮や作業の安全性向上についても紹介され、施工を担当する羽田組の佐藤公明社長は「ぜひ地元の建設業に入ってほしい」と生徒たちに伝えていました。

2日目は武石地域総合センターの増築工事と小寺尾で急傾斜地崩壊対策工事の現場を見学。生徒たちはそれぞれの現場で担当者から施工方法などについて説明を受けたあと、現場の状況を注意深く確認していました。

# 長野県建設業協会

<p><b>博</b> 建設業 青木建設工業株式会社</p> <p>クレームゼロの仕事を心掛けています。</p> <p>代表取締役社長 青木友和</p> <p>上田市上丸子1706 TEL.0268-42-3127 FAX.0268-42-3708</p> 	<p>"地球修理工の感動産業" 建設・環境・人材育成事業を通じて地域の発展を願い 地域と行政の橋渡しをする……</p> <p><b>春原建設株式会社</b></p> <p>代表取締役社長 春原文浩</p> <p>長野県上田市住吉1-7</p> <p>"困ったら"…まずは電話!! TEL.0268-22-7018 FAX.0268-27-4094</p> 
<p>特定建設業</p> <p><b>要</b> 有限会社 岩下組</p> <p>代表取締役 岩下通孝</p> <p>小県郡青木村大字村松1721 TEL.0268-49-2023 FAX.0268-49-2774</p> 	<p><b>千曲建設工業株式会社</b></p> <p>上田市諏訪形973-1 TEL. 0268-22-3835 E-mail : info@chikumakk.co.jp http://www.chikumakk.co.jp</p> <p><b>チクマホーム</b> Land Reborn Oshika Oshika System チクマの土地 チクマのリフォーム チクマの土木 チクマのシステム</p>
<p>法令を遵守し施工致します</p> <p><b>勝</b> 株式会社 金井組</p> <p>代表取締役 北田雄一</p> <p>小県郡長和町大門119 TEL.0268-68-2137(代) FAX.0268-68-2677</p>	<p><b>TOBUKAIHATSU</b> 確かな技術・誠意ある施工 地域からさらに信頼される会社を目指して!!</p> <p><b>東部開発株式会社</b></p> <p>代表取締役社長 柳沢昌美</p> <p>〒389-0506 長野県東御市祢津1304 TEL.0268-62-0480 FAX.0268-64-3848 E-mail : info@tobu-kaihatsu.jp</p> 
<p>自然に囲まれたこの環境を私達の手で大切に守りたい。 後世に残る品質と信頼を目指して…</p> <p><b>北澤土建株式会社</b></p> <p>本社 長野県上田市武石沖471-1 TEL.0268-85-2039(代) FAX.0268-85-3394 URL : http://www.kitazawadoken.co.jp E-mail : master@kitazawadoken.co.jp 東御支店 TEL.0268-62-1674</p> 	<p><b>HATA</b> 株式会社 羽田組</p> <p>代表取締役社長 佐藤公明</p> <p>小県郡長和町和田1540-1 TEL.0268-88-2012 FAX.0268-88-2774</p> 
<p>"HYGGE"な居心地のいい時間や空間づくり</p> <p><b>窪田建設株式会社</b></p> <p>President Director 窪田秀徳 URL:www.ie-kubota.jp mail: kubota@n-h-n.com</p> <p>☎386-1213 長野県上田市古安曾1116 TEL.0268-38-3050(代) FAX.0268-38-8099(NORWAY HOUSE GALLERY)</p> 	<p><b>平野建設株式会社</b></p> <p>代表取締役 平野仁一</p> <p>上田市御所601-1 TEL.0268-27-3345 FAX.0268-25-3598</p>
<p><b>株式会社 倉島組</b></p> <p>代表取締役 倉島卓司</p> <p>上田市上丸子1385 TEL 0268-75-7078 FAX.0268-75-7079</p>	<p><b>喜</b> 有限会社 深井組</p> <p>代表取締役 深井伸一</p> <p>上田市東内411-4 TEL.0268-42-2053 FAX.0268-42-7117</p>
<p>「常に誠実であれ!」をモットーに 「技術」と「品質」で地域の明日を創造します。</p> <p><b>株式会社 栗木組</b></p> <p>代表取締役社長 栗木悦郎</p> <p>上田市長瀬3918 TEL.0268-34-7666 FAX.0268-35-3433</p> 	<p>大正3年創業 誠意と信用と技術で地域社会に貢献する</p> <p><b>株式会社 宮嘉組</b></p> <p>代表取締役社長 宮島聖二</p> <p>上田市蒼久保1416-1 TEL.0268-35-0032(代) FAX.0268-35-0086</p>

# 上小支部の仲間たち

令和3年2月現在

未来を建てる。それが私たちの使命です。



**株式会社 宮下組**



代表取締役社長 石塚博敏

〒386-0017 長野県上田市踏入二丁目1番17号  
TEL.0268-22-0271(代) FAX.0268-25-6123



建設業

**池田株式会社** TEL.0268-72-2251  
FAX.0268-72-2245

上田市真田町長7166-2  
代表取締役 池田豊文

元祖 やきとり 備長炭焼

**千串屋**

TEL.0268-71-0357 FAX.0268-71-0358



明治15年創業



**柳屋建設株式会社**



代表取締役 小河原嘉彦

上田市中央 2-13-17 TEL.0268-24-3220



夢を形に 楽しい 住まい造りグループ

建築・土木請負



**株式会社 永井建設**

代表取締役 永井大輔

上田市五加254番地  
TEL.0268-38-2336(代) FAX.0268-38-8194

**株式会社 創恒**

代表取締役 金井利亀

上田市古安曾1593-1  
TEL.0268-39-2888 FAX.0268-39-2889

豊かな郷土づくりに貢献する



**木島建設株式会社**

土木・建築・造園・設計施工

〒386-2201 上田市真田町長6116-1  
TEL.0268-72-2267 FAX.0268-72-4160



**株式会社 小山産業**

代表取締役 小山 俊夫

小県郡長和町和田1485番地1  
TEL 0268-88-2045  
FAX 0268-88-2035




**株式会社 堀内建設**

周辺環境に配慮した土木工事を提供します  
技術力と信頼で地域へ貢献します  
代表取締役 金森潤哉

TEL.0268-75-8468 FAX.0268-75-8469




**三共テック株式会社**

代表取締役社長 須江啓一

〒386-0002 上田市住吉370-1  
TEL.0268-23-1842 FAX.0268-27-0909



MATSUI 技術・品質・サービスを地域の皆様へ!!



**株式会社 松井建設**

代表取締役 松井智哉

長野県上田市武石小沢根215-1  
TEL.0268-85-2709 FAX.0268-85-2409




TOTAL CONSTRUCTION



**竹花工業株式会社**  
田中支店

取締役副社長 田中支店長 山浦友二

東御市東518  
TEL.0268-62-0144 FAX.0268-62-1119




信頼と技術と真心でお応えする住み良い街づくりのパートナー



**山真建設有限会社**

代表取締役 山岸 信幸

長野県上田市芳田2114-7  
TEL:0268-35-3651  
FAX:0268-35-3688  
URL:https://yamashin-c.jp/  
E\_mail:info@yamashin-c.jp





“地域に根差し、地域と共に歩む。お客様の笑顔と信頼を得る”  
ことを大切にしています。



**株式会社 小幡**

代表取締役 小幡晃大

上田市材木町1丁目9-15  
http://www.obt.co.jp  
TEL.0268-28-1877 FAX.0268-22-8590





# 年末工事現場安全パトロールを開催

## 冬期もしっかりと安全対策を



工事概要の説明を受ける



報告会では好事例も紹介

12月1日、建災防上小分会と共催で年末工事現場安全パトロールを行いました。上田労働基準監督署や、発注機関である上田建設事務所、上田地域振興局からの参加者も含め計29人が土木6班、建築2班にわかれ各現場を巡回。

現場担当者から工事概要の説明を受けたり、危険な箇所はないかといったことを入念にチェックして回りました。

パトロール後の報告会では全員で良かった点や改善点を共有。転落防止のためにカラーコーンを設置するようお願いしたケースなどが報告

されたほか、良かった点として、敷き鉄板がきれいに溶接してある現場や、事務所にAEDを設置している現場などが紹介されました。

上田建設事務所の蓬田陽参事兼所長は、東日本台風の災害復旧工事にあたっている各社に謝意を伝えたくて「湯水期になり、河川工事等を進めていかなければならない状況。これから本格的な冬をむかえ積雪や凍結など様々な要因で事故等の危険が考えられる。工事にあたる皆さんの安全確保を最優先に仕事をしていただきたい」と呼びかけていました。



令和2年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により社会生活に重大な影響を及ぼしました。建設業もコロナ禍の中、現場の衛生環境

に気を配りながら作業にあたっています。

令和元年の台風19号災害復旧工事では、多くの会社が人手不足で苦勞しました。資金の不足ならば銀行で何とかするし、資材の不足ならば値段が高額になるのを覚悟すれば何とかあります。しかし、人手だけは急には手当てできません。この度の災害のように、一度に大量の工事が

発注された場合は人手不足が深刻な状況となりますが、各社の精一杯の努力により、なんとか工事をこなしてきました。時には会社の枠を超え、会員一丸となり、昼夜を問わず復興にあたりました。よくやってこれたと思います。

この災害をきっかけにして「人」の確保・育成の課題を解決していかなければならないと思います。第30号では、現場で働く人々の生の声を取り上げました。仕事への向き合い方や皆様の温かい言葉に励まされ、安全・安心な地域づくりをする姿を感じていただければ幸いです。是非ご一読ください。

